

一つの賃金分布の型に就て

兼所員 増山元三郎

(11日12日受付)

労働統計要覧(昭和8年版)に在る本邦織組工業に於ける女工賃金の分布を一つの函数で表すことを試みた。又賃金とし相対累積度数を $y(x)$ とし、試行錯誤法で調べると

$\log \frac{y}{1-y}$ と互向に線型式が成立した。

之を

$$\log \frac{y}{1-y} = \frac{x}{k} - \log \beta \quad k, \beta \text{ は定数}$$

と置くと、分布函数は

$$y = \frac{e^{\frac{x}{k}}}{\beta + e^{\frac{x}{k}}}$$

なる、壯丁の身長分布が正規型と云はれ乍ら、
賃の身長や10米の身長の人々が居ない様に、この
の分布で、又く、のとか、又の充分大きいと云
るは、実状と表はしてゐない、と解すべきであ
らう。このこととさく表すのは、この分布函数
は平均賃金が幾散可る、と云は、併し實際の女工
の平均賃金の幾散可る、と云は、併し實際の女工
この式の幾散可る、と云は、併し實際の女工
て例をとると、今

$$\frac{2}{H} = \frac{1}{\beta} + \frac{1}{1-y}$$

と置くと、Hは、Hなる級 $(x, x+\alpha x)$ の意味)と
上及び下の最数の割合の調和平均である。式

(37)

上式は

$$dy = \frac{H}{2k} dx$$

左邊は y 、右邊は x に属する人は H に比例する
と表はしてある。